

事業報告

令和2年度 「信州 体験の風をおこそう」運動推進事業 体験の風ファミリーフェスティバル

令和2年12月12日(土)～13日(日)

【対象】 幼児・小・中学生とその家族

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

様々な体験活動や家族間の交流を通して、自然体験活動への興味関心を高めるとともに、体験活動の重要性の普及・促進を図る。

～主催～

「信州 体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会

～活動日程～

| 時 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | |
|-----------------|-------------------|-----------------------------|---|--------------------------------------|---------------------------------|----|----|----|----|------------------------|----|-------------------------------|--|----|----|----|-------|----|
| 1日目 12/12(土) | | | | | | | | | | ・15:00～16:30 受付(宿泊) | | 17:30 ～18:30 夕食 (盛付) | 18:30～21:00 夜のシークレットプログラム ※内容については当日 受付にて | | | | 消灯・就寝 | |
| 2日目 12/13(日) | 6:00 起床 清掃等 | 7:10 ～8:10 朝食 (盛付) | | 9:00 ～ 9:30 受付 (日 帰り) | 9:30～15:00 クラフト体験ブース、周辺散策 など | | | | | | | | 18:00～21:30 入浴 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 解散 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

～参加者～

宿泊 22 家族 / 71 名

日帰り (13日) 18 家族 / 64 名 計: 135 名 (長野県)

～活動トピックス～

《1日目》夜のシークレットプログラム (全6プログラム)

- ① 世界に一つしかないオリジナルクラフトを作ろう (その1)
- ② ナイトハイクとたき火を楽しもう
- ③ 星座を観察しよう (300mm 反射望遠鏡、プラネタリウム)
- ④ VR (バーチャルリアリティ) で高遠城の合戦を観よう
- ⑤ 白熱! 恐竜エアースライダー
- ⑥ キック DE ボーリング

受付後、家族ごとにプログラムの計画を立て、各プログラムに分かれて実施した。③④については事前に整理券を配布した。天候が良好だったため、屋内と屋外の両方のプログラムを開催でき、子どもたちや保護者は満足そうな様子だった。



《2日目》体験ブース（全6プログラム）

- ① 世界に一つしかないオリジナルクラフトを作ろう（その2）
- ② 高遠の自然を散策しよう
- ③ ターザンロープで遊ぼう
- ④ カラフルなわたあめをつくろう
- ⑤ 白熱！恐竜エアースライダー
- ⑥ キックDEボーリング



家族ごとにプログラムの計画を立て、各プログラムに分かれて実施した。初日同様、天候が良好だったため、屋内・屋外の両方のプログラムが開催できた。子どもたちはカラフルな綿あめを片手に、楽しそうな様子だった。

《2日目》フードコーナー

豚汁や焼きそば、フランクフルト、海老名サービスエリアで有名なメロンパンなどを取り寄せ、食堂で販売した。子どもたちや保護者は食べたいもの食べてゆっくり休み、和やかな雰囲気だった。



～参加者の声～

- ・衛生対策がきちんとされていた。
- ・子どもと2人で参加したけれど、スタッフの皆さんが話しかけてくれてありがたかった。
- ・コロナ禍で自由に遊べない期間が長かったので、密を気にせず、自然の中で楽しめるイベントが多くて良かった。
- ・普段、山を歩くことはないのですが、新しい発見があった。
- ・子どもが恐竜エアースライダーを夢中になって遊べました。

～成果と課題～

○新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者には事業日の7日前から当日にかけて体調管理をしていただき、当日も職員による体調確認が行われ、体温や体調に異常がある方の入館を断る等の対応を行った。参加者からは「安心して利用できた」との意見が寄せられている。

○1日目の「星座観察」「VRで高遠城の合戦を観よう」については、参加者の人数が各プログラムの許容人数より多いことが予想されたため、事前に整理券を配布した。これにより混雑が解消でき、参加者の待ち時間や感染症のリスクが低減した。

●スタッフ間で情報共有が取れておらず、食事の提供に遅れが生じた。余裕を持って打ち合わせや確認作業を行う必要がある。